九州ブロッククラブネットワークアクション in くまもとプロジェクト
第５回スタッフミーティング議事要旨

日　時	平成２９年１２月１８日（月）午後４時から午後５時５０分
場　所	県民総合運動公園陸上競技場内２階会議室
参加者	住吉・山田・西島・林田・齋藤・北園（スタッフ６名）
	永田・太田黒（事務局２名）

≪議事内容≫

１　開会

２　挨拶

・齋藤プロジェクトリーダーから挨拶

３　報告（資料Ｐ１～１３参照）

（１）九州ブロッククラブネットワークアクション 2017in 沖縄について

①齋藤プロジェクトリーダーから報告

・障がい者スポーツの体験コーナーとして、車いすサッカーが会場でできたのは非常に良かった。次年度の本県開催にも体験系があると良いと感じた。

・共通プログラムについて、着地点を明確にした方が良いと感じた。障がい者スポーツの情報提供だけで終わるのはもったいない気がした。

・オリジナルプログラムの事業計画については、総合型地域スポーツクラブではない NPO 法人の方が講師となっていたため、まちづくりなどの違う視点からの見解や考え方を聞くことができてよかった。本県開催の際も、他団体の方が発表するプログラムを入れると良いと感じた。

　また、ワークの際、コーディネーターが数名いたが、誰がどこの担当なのか等がわかりづらかった。事前説明がもう少し丁寧にあると良いと感じた。

・情報交換会については、立地がよかったため、２次会にも行きやすかった。

　PR 動画の CM グランプリは会場に一体感があり、非常に良かった。次年度も引き続きという声があったため、是非続けてほしい。（ただし、応募多数の場合は同運営するか検討が必要。）

・本県の開催に向けて、家族参加できるプログラムがあると総合型地域スポーツクラブの良さが出ると思う。

・創設支援クラブや自立・クラブマネジャー設置支援事業を受託しているクラブが参加が必須となり、アシスタントマネジャー・クラブマネジャー資格所持者は更新のための義務研修となるため、そういったことも考慮した内容設定が必要と感じた。

②事業実施後の反省について事務局から報告

・沖縄県での開催終了後、実行委員会で出た反省を説明。

・熊本開催について、日程と場所は九州各県に連絡しており、内容についても常任幹事県である長崎県に随時報告・相談している旨報告。

４　議事

（１）九州ブロッククラブネットワークアクション in くまもとの開催について（資料Ｐ１４、参考資料参照）

①平成３０年度本県開催に向けたスケジュールについて

・資料Ｐ１４のとおり事務局から説明。

・発表クラブ（発表者）の選定は早めにした方が良いとの意見があった。

②予算等財源について

・資料Ｐ１４のとおり事務局から説明。

・会場費がいくらになるのかによって、積立金や支援金の活用額が変わるため、早めに確認した方が良いとの意見があった。

・本県開催は発表予定者数が多いが、謝金及び旅費が全額出るのか確認した方が良いとの意見があった。

③事業実施内容について

・資料Ｐ１５のとおり事務局から説明。

・７月の実行委員会終了後、すぐ案内ができるように準備を進める必要があり、参加申込締切は平成９月末日までと早めにした方が良いとの意見があった。

・申込取りまとめは開催地クラブにお願いできると良いとの意見があった。（ソのっ分の予算措置が必要）

・開催に向けた周知について、九州各県のクラブ関係者が集まる機会に周知広報した方が良いとの意見があった。（出向く場合は旅費をつける必要あり）

・共通プログラムについて、障がい者スポーツだった場合は、どういった内容が聞きたいという意見・要望はできるのか、日体協に相談するよう意見があった。

（発達障害がある方への対応など課題があるため、それに関連した対応策や実践の話が聞きたいとの声が多かった。）

・オリジナルプログラムⅠの８つのテーマについて、事前に申込みの際希望を聞いた方が良い。

・オリジナルプログラムⅠの内容及び発表クラブ（案）

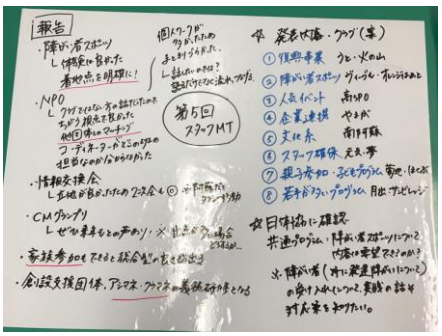
テーマ	クラブ名	詳細
障がい者スポーツ	ヴィーブル FUN クラブ オレンジはあとクラブ	事業所との連携 車いすバスケ・ラグビー
復興事業	NPO 法人うとｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ NPO 法人火の山ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ	スポーツ施設の指定管理者 避難所等への支援活動
人気イベント	高 SPO	泥りんピック等
企業連携	やまが総合ｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ	オムロンハンドボール部との連携
文化系プログラム	クラブ南阿蘇	県内一のプログラム
スタッフ確保	元気・夢クラブ	保護者から運営スタッフ確保
子どものプログラム	一般社団法人菊池ゆったりｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ ほくぶ総合スポーツクラブ	学校と連携した総合運動プログラム 学校の教員が地域で指導
若者が多いプログラム	エス・エス・月出 サンビレッジみなまたｽﾎﾟｰﾂｸﾗﾌﾞ	20～40 代の会員が多いクラブ

・オリジナルプログラムⅡ「クロスロード」の冒頭に、被災地からの生の声を入れると良い。（NPO 法人火の山スポーツクラブに依頼。５～１０分程度）

その後クロスロードの研修に入った方が良い。

④プロジェクトスタッフのメンバー補充・専任について

・資料Ｐ１６のとおり事務局から説明。

・補充スタッフは本協議会理事２名及び開催地クラブ１名で理事会に提案することで決定。

５　閉会